

未来を広げる洗浄技術を 「2012洗浄総合展」へ!!



日本産業洗浄協議会

会長 松浦 功

Matsuura Isao

(三井・デュポン フロロケミカル株式会社)
常務取締役

日本産業洗浄協議会（以下“JICC”と略）の本年度の展示会は、偶数年に例年企画しておりますように、社団法人日本洗浄技能開発協会および日刊工業新聞社との共催で、「2012 洗浄総合展」として東京ビッグサイトで開催致します。

会期は、10月17日(水)～19日(金)、会場は東京ビッグサイト[有明・東京国際展示場]、スローガンは“未来を広げる洗浄技術”で、出展の募集はすでに始まっております。今回は特に、他の2つの展示会と会場と会期を一にして、合同行事を企画している点が大きな特徴です。

すなわち、社団法人土壌環境センターの「2012 土壌・地下水環境展」、日本真空工業会および一般社団法人日本真空協会の「VACUUM2012 真空展」が、いずれも日刊工業新聞社の共催として、「2012 洗浄総合展」と共に共同の特別企画を計画することになりました。JICCは地球環境問題に取り組むことが大きな目標である点で、社団法人土壌環境センターと同じ性格を持っております。また、モノづくりの基盤技術に係わる団体としては、日本真空工業会および一般社団法人日本真空協会と共通した、日本産業界を支える使命をもっております。

3展示会の合同行事の一つとして、2010年にノーベル化学賞を受賞された根岸英一博士に特別講演をお願い致しました。講演内容としましては、“モノづくりにおける化学物質の存在意義と、これからの低炭素社会形成に必要な化学領域の貢献について”という案を希望致しましたが、博士には快くご承諾いただきました。博士から、10月は各種学会の開かれる多忙なシーズンではあるが、万難を排して日程を合わせてアメリカから帰国するとのご返事をいただいております。また、「2012 JICC 洗浄技術フォーラム」は、第15回目となりますが、本特別講演会とリンクしたプログラムを組み、話題性のある新しい洗浄技術をご紹介する予定です。

さらに、JICCのもう一つの活動をご紹介します。財団法人日本學術振興会が、2008年度から5ヵ年の計画で、アジア研究教育拠点事業の一環として、“東アジアにおけるモノづくりと環境のマネジメント”のプロジェクトを実施中です。同プロジェクトの推進責任者である名古屋大学大学院の高桑宗右エ門教授は、JICCの活動に興味を持たれ、JICCは同教授より同プロジェクトのセミナーへの参加のお誘いを受けております。

JICCは同教授の要請に応じて、過去6回の日本、中国、韓国における同セミナーに参加し、モノづくり現場における化学物質管理の重要性を訴えて参りました。今後も同プロジェクトの活動に積極的に協力し、次世代を担う各国の若者に化学物質管理の重要性を理解していただくよう努力して参りたいと存じます。

JICCは地球環境問題を大命題として、時代の要請に応える洗浄技術の開発、普及に努めて参りました。会員および関係者各位には、展示会への積極参加はもとより、JICCの諸活動に絶大なご支援を賜りますようお願いする次第です。